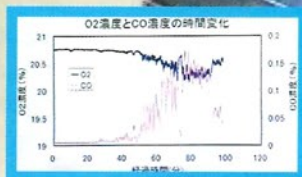
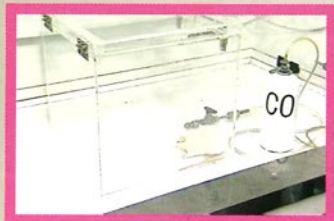


火災・煙・有毒ガス

検証 新宿歌舞伎町ビル火災



その時あなたは
自分の命を守れますか？



手話版あり



写真提供 大阪市消防局

企画意図

2001年9月1日、午前1時頃、東京・新宿歌舞伎町で発生した雑居ビル火災は、44人もの死者を出す大惨事となりました。そして、その死因の殆どが一酸化炭素中毒ということから、私たちは火災によって発生する煙と有毒ガスの恐ろしさを、まざまざと見せつけられました。

そこで、この作品では、煙の流動実験、専門家のアドバイス、火災事例の分析などをおりませながら、もう一度、火災における煙の危険性、燃焼によって発生する一酸化炭素など、有毒ガスの恐ろしさを見直し、併せて、火災時の煙から我が身をどう守ればよいかを考えてみたいと思います。

ビデオ価格 60,000円+税 視聴時間 22分

【不二映画・映学社 作品】

作品の内容

東京・新宿歌舞伎町の雑居ビル火災で、私たちは、一酸化炭素中毒の怖さを、またしても思い知らされました。過去の火災の教訓から、その恐ろしさは知っているはずの一酸化炭素だが、私たちは自分の命を守るために、今一度、その性質について正しく学ぶ必要があるのではないのでしょうか。

■煙とは……？一酸化炭素とは……？

無色無臭の気体である一酸化炭素。酸素が欠乏した状態で物が燃えると、なぜ一酸化炭素が発生するのかを分析。次にマウスの実験やCGなどで、動物の体内に一酸化炭素が吸収されると、なぜ中毒が起るのか、一酸化炭素中毒の恐ろしさも解説する。

専門家の立場から日本医科大学・大野教授は言う。

「一酸化炭素はわずか0.1%で、人体にとって非常に危険な濃度といえます」

では、一酸化炭素濃度が0.1%を越えるような火災とは、どの程度の火災なのだろうか。

■一酸化炭素ガス発生実験・煙の流動実験

火災で最も多い寝煙草によるフトン火災を想定し、消防研究所の協力で、一酸化炭素ガス発生実験が開始される。時間の経過とともに、一酸化炭素ガスなどの量が、計測され記録される実験だ。この実験から、くすぶり続けるフトンの煙から、致死量に至る一酸化炭素ガスが発生することが分かる。

次に新宿・歌舞伎町の雑居ビルと同じく、避難階段が1つ、エレベーターが1基しかない4階建てビルを、30分の1のスケールで再現した実験装置での煙の流動実験。煙が階段室を煙突のようにして伝わって、一気に上昇していく様子を捉える。

■一酸化炭素中毒による死者の出た火災事例

煙の性質が分かったところで、一酸化炭素中毒の恐ろしさを象徴する二つの火災事例を、もう一度検証しておきたい。

一つは記憶に新しい2001年9月、新宿歌舞伎町雑居ビル火災。3階エレベーター前付近から出火、3階、4階に取り残された44名のほとんどが、一酸化炭素中毒により死亡した。出火してから、ほんのわずかな時間での出来事だった。

もう一例は、1972年5月の大阪千日デパートビル火災。

午後10時半頃、3階のスーパーから出火。黒煙はたちまち地下1階から地上7階までのビル内に充満した。5階以上には、火の手が及んでいないにもかかわらず、7階キャバレーで多くの死者を出した。犠牲者のほとんどは、やはり一酸化炭素中毒死であった。一酸化炭素の恐ろしさは、火元から遠く離れていても、階段やエレベーターを、一気に上昇し部屋に侵入して、人の命を奪ってしまうところにあるのだ。

■一酸化炭素中毒・体験者の証言

実際に、一酸化炭素中毒の恐さを体験した人の話も聞いてみよう。市営住宅に住む池田さん。階下の12階で起こった寝煙草による火災に、いち早く気づき、初期消火にあたった方である。池田さんの初期消火のおかげで、幸い火事は大事に至らずにすんだが、池田さんは救助や消火をしている間に、一酸化炭素中毒にかかってしまっていた。

ここでも、実際の火事現場の状況や一酸化炭素中毒にかかった人への取材から、炎から離れていても、煙にまかれ一酸化炭素中毒にかかってしまう恐ろしさを訴える。

■煙や火からから身を守るポイント

*では、一酸化炭素から身を守るためには――

- 息を止めて一気に逃げる
- 煙が充満していたら、床上15センチ以内に顔をうずめ腹ばいになって進む
- 暗闇になることを想定して、懐中電灯を持って逃げる

*火事にあつた時の対処法

- 身の安全を確保と119番。
- 初期消火は火が天井に届かないうだけ
- 逃げたら絶対に戻らない

最後は、煙に巻かれて命を落とすような悲惨な目に遭わないためには、一酸化炭素の性質をよく知り、建物に入った時は、非常階段や窓など、いざというときの逃げ道を把握しておくことが重要であることを訴えていく。

●監修：東京大学大学院工学系 教授
工学博士 菅原 進一

●指導：日本医科大学 法医学教室 教授
医学博士 大野 曜吉

●協力：日本医科大学法医学教室
国立国際医療センター
独立行政法人 消防研究所
東京消防庁 田園調布消防署
神戸市須磨消防署

●資料提供：大阪市消防局

●スタッフ

制作 監督：高木 裕己	撮 影：森 隆吉
プロデューサー：篠原 修	録 音：沢畑 明
	選 曲：柏瀬 紀代隆
脚 本：高木 裕己	CG制作：小嶋 宏幸
加藤 有芳	：高橋 誠哉
	ナレーター：中里 雅子

●企画 制作 著作：不二映画株式会社
株式会社映学社

お問い合わせ



〒160-0022 東京都新宿区新宿5-7-8 らんざん5ビル

TEL:03-3359-9729(代表) FAX:03-3359-4024 info@eigakusya.co.jp